

ステップ②…学習済みモデル のトレーニング

佐藤 聖

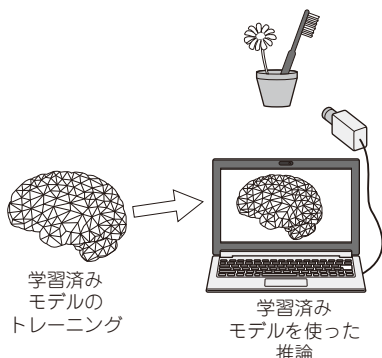


図1 第3章では学習済みモデルのトレーニングを行う

リスト1 学習済みモデルのトレーニングに利用する

segmentation.yaml

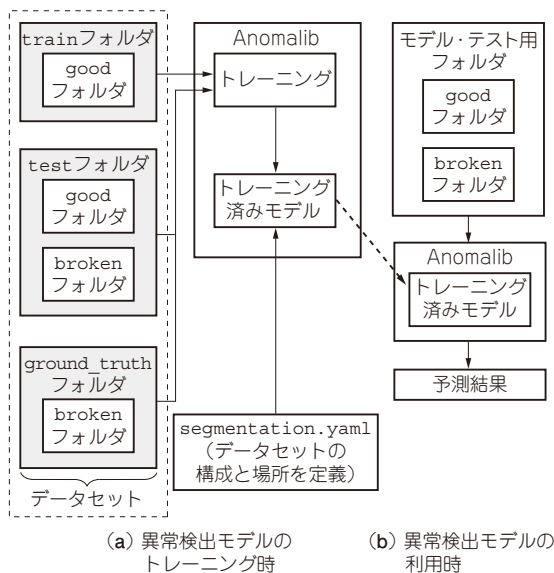
```
1 class_path: anomalib.data.Folder
2 init_args:
3   name: Battery
4   root: "battery"
5   normal_dir: "train/good "
6   abnormal_dir: "test/broken"
7   normal_test_dir: "test/good"
8   mask_dir: "ground_truth/broken"
9   normal_split_ratio: 0
10  extensions: [".jpg"]
11  train_batch_size: 32
12  eval_batch_size: 32
13  num_workers: 8
14  task: segmentation
15  transform: null
16  train_transform: null
17  eval_transform: null
18  test_split_mode: from_dir
19  test_split_ratio: 0.2
20  val_split_mode: same_as_test
21  val_split_ratio: 0.5
22  seed: null
```

フォルダ構造に
合わせて修正

入力画像の拡張子を
jpgのファイルに
限定している

トレーニングの
バッチ・サイズ

タスク



(a) 異常検出モデルの
トレーニング時

(b) 異常検出モデルの
利用時

図2 異常検知のための学習済みモデルをトレーニングする

に用意した画像を使って異常の有無を予測します。

手順1… トレーニング設定ファイルを作る

図2のフォルダ構造を参考にして、学習済みモデルのトレーニング用yamlファイルを作成します(リスト1)。yamlファイルに、

- ルート・ディレクトリ
- トレーニング・データ
- テスト・データ
- マスク画像

の格納場所を記述して、学習モデル生成時に利用します。

● 記述内容と設定項目

yamlファイルの準備は、異常検知のための高品質なデータセット群MVTec ADのトレーニングに使用されるyamlファイル^{注1}を参考にしています。